

大倉工業株式会社 2022年12月期第2四半期決算説明会 質疑応答

Q1. 光学フィルムの特に広幅化の状況、需要動向及び事業展開について教えてほしい。(資料 P22)

- A. みなさんご存じの通り、光学フィルムの全般については在庫調整局面で回復時期についても不透明です。当社は光学フィルムの広幅化に取り組んでいますが、それは顧客の中国偏光板メーカーで広幅化ラインの増設計画があるからです。既に稼働しているライン、これから計画されるラインもありますが、当社はそこにタイムリーに製品を供給できる体制を整備しています。現在は需要の谷間ではありますが、2024、5年から需給がタイトになるとの想定は変わらず、広幅化に向けてプレゼンスを高めていきます。

Q2. 合成樹脂事業セグメントのプロセス機能材料についてもう少し詳しく教えてほしい。(資料 P21)

- A. 当社の導電性フィルムは半導体輸送用パッケージの一部に使用されています。フィルムを円形に成形しウエハーを挟んでパッケージ化する用途に使われており、現在、需要が非常に伸び供給もタイトな状況です。また、製造プロセスで使用されるダイシング用フィルムの製造をしています。もう一つのタブテープ用は、ニッチな製品でリチウムイオン電池の外に出たリード紙を保護するフィルムです。

Q3. 以前、説明されていたシングルユースバッグの状況を教えてほしい。

- A. シングルユースバッグは中国での新型コロナワクチン向けの需要急増に対応して取り組んできましたが、残念ながら需要が減り今までの供給能力で足りる状況になってしまいました。国内ワクチン向けや細胞培養用の用途に向けて顧客と協同で取り組んでいます。

Q4. 原燃料価格上昇に対する製品価格転嫁の状況について教えてほしい。(資料 P21)

- A. 当社販売チャネルは多様で一概には言えませんが、春先までは製品価格改定は思うように進みませんでした。しかし、6月以降は、顧客も受け入れざるを得ない状況と理解していただけるようになり、コスト上昇幅に近い水準で決着できてきています。8~9月にはコスト上昇分までの製品価格改定が出来る見込みです。リーマンショック前の原料値上がり局面と現在とでは環境が大きく変わったと認識しています。

Q5. サステナビリティ推進に掛かる費用上昇の影響とその負担についての考え方を教えてほしい。(資料 P28、P29、P30)

- A. 太陽光発電の導入についてはPPAモデルを採用し、コスト増を最小限にした対応を進めていきます。リサイクル製品については顧客で発生している廃プラスチックの処理費用を含めたとータルコストで製品価格を比較して頂き、コスト負担が多くならない製品設計をして採用の拡大に努めています。

Q6. 新規材料セグメントのモバイル向け製品と機能材料 BU 製品の今後の見通しについて教えてください。(資料 P11、P22)

A. 中小型サイズのモバイル向けについて、メイン顧客のハイエンドモデル向けは秋以降に回復すると見込んでいます。機能材料 BU はニッチな製品ですが利益率が高い製品が多くあります。シームレスベルトなどのプリンター関連製品は、この2年間テレワーク需要が伸びていたが直近は減少に転じています。しかし代わりに OA 用、業務用が回復しています。接着剤は溶接代替用途で顧客より引き合いがあり今後の拡大を見込んでいます。PPF (ペイントプロテクションフィルム) は高級車の新車ボディ保護用のプロテクトフィルムとして使用されており、顧客からの製品評価が高く採用が拡大しています。

Q6. 自動車のモジュール化が進み接着剤が伸びると思いますがどう考えていますか。

A. 自動車のモジュール化、EV 化で接着剤は伸長すると予想しています。伸び率は年率で2桁増であり、今後も続くと考えています。

以上